

歴史編

発刊のご挨拶	002
--------	-----

第1章 創立・黎明期 1915-1929

第1節 梁瀬商会の設立	
1. 創業者、梁瀬長太郎の出自	014
2. 梁瀬商会の誕生	015
3. 本社の移転・拡張	016
4. ボディ製作への注力	017
5. 工場の増設	018
第2節 梁瀬自動車株式会社の設立	
1. 芝浦工場の建設	018
2. 出張所の開設	020
3. 梁瀬自動車株式会社の誕生	020
4. 純国産車ヤナセ号の完成	022
5. 大不況の到来と業績の低迷	023
6. 日本初の中古車オークション開催	023
7. 関東大震災と業績の急回復	024
第3節 GM社との決別とフィアットなどの輸入	
1. GMの販売権返還	025
2. フィアット、スチュードベーカー、アースキン、レオトラックなどの全日本販売権獲得	026
コラム ①「弓をひくヘラクレス」	027

第2章 事業の模索 1930-1939

第1節 GM社との代理店契約再締結	
1. GM社との復縁	030
2. 本社の新築・移転	031
第2節 自動車に代わる戦時中の事業	
1. 自動車の輸入販売中止	031
2. 国産車の製造・販売	032
3. 梁瀬式天然ガス自動車の完成	032
4. 日本瓦斯自動車の設立	034
5. 液化ガス自動車装置の開発	035
第3節 高浜工場の設立	
1. 陸海軍用特殊ボディの製作開始	036
2. 高浜の土地入手	036
3. 高浜鑄工所の設立	037

第3章 戦災からの再起 1940-1949

第1節 戦災による被害	
1. 梁瀬自動車工業株式会社への社名変更	040
2. 空襲による支店の焼失	041
3. 芝浦工場一部焼失	041
4. GHQによる接収	042
第2節 戦後の再生	
1. 梁瀬次郎の略歴	042
2. 梁瀬次郎の社長就任	043
3. 当時の事業	043
第3節 自動車事業の再生	
1. 戦後の自動車業界の事情	044
2. 大阪・名古屋・福岡支店の再開	045
3. 国産車の販売開始	045
第4節 自動車輸入販売の再開	
1. GM社製品の販売権獲得	046
2. HDO業務の開始	047
3. 西日本各支店の受難	048
4. 第1回GM社各車の展示会開催	048
5. 本社事務所の芝浦移転	049
6. 日本橋社屋接収解除	050
7. 支店・出張所の移転・開設	050
8. 天皇陛下の御料車納入	051

第4章 復興の足音 1950-1959

第1節 自動車輸入政策の変遷	
1. 外貨割当制度の開始	054
2. 外貨割当制度の変化	054
第2節 メルセデス・ベンツの販売開始	
1. ウェスタン自動車の設立	055
2. ウェスタン自動車、メルセデス・ベンツの日本販売権獲得	056
第3節 フォルクスワーゲンの販売開始	
1. フォルクスワーゲンの日本販売権獲得	056
2. 日独自動車の設立	057
第4節 メルセデス・ベンツ、フォルクスワーゲンの輸入総代理権獲得	
1. GM社の許可取得と総代理権獲得	057
2. フォルクスワーゲン社製産業用エンジンの取扱開始	058
3. ウニモグの販売開始	059
第5節 プリンスの販売開始	
1. 販売の端緒	060
2. 東京、福岡、大阪での販売開始	061
第6節 ボルボの販売開始	
1. ボルボとの出会い	062
2. 北欧自動車の設立と輸入販売権の返上	062

第7節 創立40周年と創業者梁瀬長太郎の逝去	
1. 記念式典の挙行	063
2. 大阪支店、新社屋移転	063
3. 梁瀬長太郎の逝去	063
4. 拠点網の整備	064
第8節 事業の多角化	
1. 日本テレビジョンの設立	066
2. ヤナセモーターの建設	067
第9節 1950年代の商事事業	
1. 日本橋ヤナセストアの開設	068
2. 米国ウエスティングハウス社製の各種家電製品の販売権取得	069
3. 英国アラジン社製オイルヒーター、オイルランプなどの日本総代理権獲得	069
4. 塗床材デックス・オ・テックスの日本代理店となる	070
5. 国産メーカーの製品取扱開始	070
コラム ② 軽自動車「フライング・フェザー」の販売	071
コラム ③ 幻の軽自動車「ヤナセ YX360」の試作開発	071

第5章 高度経済成長期の発展 1960-1969

第1節 特殊総合会社としての再出発	
1. 梁瀬自動車と梁瀬商事が合併し、「株式会社梁瀬」誕生	074
2. 資本金、3億2,000万円に増資	074
第2節 自動車事業の基盤整備	
1. 本社および芝浦工場敷地の購入	075
2. 本社社屋の建築	076
3. 新社屋落成式の挙行	077
4. 創立50周年・新社屋落成記念式典の開催	078
5. オリンピック記念「メルセデス・ベンツ・スペシャルショー」の開催	079
6. 名古屋支店小牧デポの竣工	080
7. 横浜デポの竣工	081
8. アウディ全車種の日本総代理店となる	081
第3節 関連事業の基盤整備	
1. ダイムラー・ベンツ社製ディーゼルエンジンの販売権獲得	082
2. ジョンソン、エビルロード船外機の輸入販売権獲得	083
3. マスターヒーターの日本総代理店となる	084
4. 米国マジック・シェフ社製ガスレンジの日本全国販売権獲得	084
5. 米国ブリグス・アンド・ストラトン社製ガソリンエンジンの日本総代理店となる	085
6. ウエスティングハウス社の日本総代理店になる	086
7. 製造事業部の工場移転	086
8. 梁瀬空調設備の発足	087
9. 日本自動車金融の設立	087
10. 関東ヤナセマリーンの設立	088
11. 梁友社(ヤナセインシュアランスサービスの前身)の設立	089
第4節 グループ意識の高揚	
1. 社内報「和苑」の創刊	090
2. 新たな社章の制定	090
3. 第1回オールヤナセ事業所対抗野球大会の開催	091
コラム ④ アンフィカーの試走	092
コラム ⑤ 軽井沢サービス・ステーションの開設	092
コラム ⑥ 吉田茂元首相にメルセデス・ベンツを納車	093
コラム ⑦ 航空機事業への参入	093

第6章 「株式会社ヤナセ」時代の始まり 1970-1979

第1節 「株式会社ヤナセ」としてのスタートと本社の整備	
1. 株式会社ヤナセへの商号変更	096
2. ヤナセビル新館の落成	096
3. オールヤナセ海外研修の始まり	097
第2節 取扱品目の多様化	
1. スローガン、「いいものだけを世界から」の誕生	098
2. 西ドイツ コンチネンタル・グンミヴェルケ社とタイヤ手輸入販売契約締結	099
3. グリーンハウス(温室)の販売開始	100
4. ファッション事業のスタート	101
5. ヤナセインターナショナルの設立	102
6. ビステン・プリーの販売開始	102
7. 給油所の開設	103
第3節 デポの拡張	
1. 横浜ニューデポの開設と横浜デポの新整備工場・パーツセンターの完成	104
2. 自動車排出ガス試験センターの設置	105
3. 名古屋支店小牧デポの移転・拡張	106
第4節 海外事業の始まり	
1. ヤナセヨーロッパB.V.の設立	106
2. HICC(ハワイゴルフ場)のオープン	107
3. ヤナセ・オブ・アメリカINC設立	107
コラム ⑧ 「銀座スクエア」の変遷	108
コラム ⑨ 「YANASE LIFE」の発行	109
コラム ⑩ YANASE ステッカーの始まり	109

第7章 モータリゼーション時代の飛躍 1980-1989

第1節 貿易摩擦問題と輸入拡大政策への転換	
1. 輸入自動車の関税撤廃	112
2. わが国の輸出抑制と輸入拡大政策への転換	113
第2節 輸入拡大時代に認められた梁瀬次郎の功績	
1. 政府、貿易表彰制度を創設、梁瀬次郎社長が表彰	114
2. ドイツ連邦共和国バイエルン州功労勲章を受章	114
3. 勲二等瑞宝章を受章	115
4. ドイツ連邦共和国功労勲章大功労十字章を受章	115
5. 米国商務省表彰	116
第3節 取扱車種の拡大	
1. GM社と日本における北米製全GM完成車の一手輸入販売契約を締結	116
2. 日産自動車製VWサンタナの販売開始	117
3. いすゞ自動車と自社製品ピアッツァ・ネロの販売契約を締結	118
4. エーエムジー・ジャパンの設立	120
第4節 メルセデス・ベンツの輸入権の移管	
1. メルセデス・ベンツの輸入権のダイムラー・ベンツ社日本人への移管	120
2. ベンツ事業部の発足	122
3. 稲山新社長の就任と、梁瀬次郎社長の会長就任	122

第5節 関連事業の展開	
1. 胡蝶らんの生産販売会社、ハイグレード農園の設立	122
2. 米国ノースアメリカンベア社製のぬいぐるみの取扱開始	123
3. 通信販売総合カタログ誌『ORI-J』（オリジェ）の発刊	123
4. 「ガンソー自動床洗浄機」の販売開始	124
5. コーラー・ジャパンとの特約販売店契約締結	124
6. ヤナセと音楽事業	124
7. ヤナセ・プロ野球 MVP 賞の創設	125
第6節 創立70周年記念事業の実施	
1. スローガンとシンボルマークの決定	125
2. 記念式典の挙行	126
3. ヤナセ轍会(OB会)の発足	126

第8章 転換期を迎えた輸入自動車業界 1990-1999

第1節 フォルクスワーゲンの輸入販売権返上とオベルの販売開始	
1. フォルクスワーゲンの輸入販売権返上	130
2. アダム・オベル社製オベルの一手輸入販売権獲得	131
第2節 新たな車種の展開	
1. ルノーの販売開始	132
2. ヤナセサターンの設立	133
3. サープ・オートモービル社製サープの一手輸入販売開始	133
第3節 BP(板金塗装)事業の再構築	
1. BP事業への注力	134
2. BPシステムの構築と運用開始	134
第4節 関連事業の展開	
1. マリーナ事業の変遷	135
2. ドイツ・アラール社と自動車エンジンオイルの総輸入販売契約を締結	136
第5節 創立80周年前後の出来事	
1. 特約販売店の商号を変更	136
2. 代表取締役社長の交代	137
3. 阪神・淡路大震災の発生と拠点への影響	137
4. 記念行事の開催	138
5. 新車累計販売台数100万台を達成	139
6. ヤナセウェルサービスの設立	139
コラム ① 東西ドイツ統一を記念した「ヤナセ・ベルリンマラソン」	140
コラム ② 「世界らん展」に協賛	140
コラム ③ 「ヤナセ ハイグレードフェア」の開催	141

第9章 世界No.1のプロフェッショナルな カーディーラーを目指して 2000-2009

第1節 インポーター/ディストリビューターからディーラーへ	
1. シボレー、オベル、AMGの輸入権を日本現地法人に移管	144
2. キャデラック、サープの輸入権を日本現地法人に移管	145
3. メルセデス・ベンツのディストリビューターとしての契約終了	145
第2節 メルセデス・ベンツ ディーラー基盤の強化	
1. 「メルセデス・ベンツ センター 東京」を開設	146
2. 専売拠点の開設・改装	147

第3節 取扱ブランドの拡充とグループ会社設立	
1. アウディの販売再開	147
2. ヤナセクライスラーの設立	148
3. ヤナセ バイエレン モーターズの設立	149
4. ヤナセグローバルモーターズの設立	150
5. ヤナセ ヴィークル ワールドの設立	151
6. ヤナセ スカンジナビア モーターズの設立	151
7. ハマーの販売開始	152
第4節 バリューチェーン戦略の展開	
1. 中古車大規模展示場「ブランドスクエア」構想の展開	152
2. DRP事業への参入	153
3. BP拠点の充実	154
4. ヤナセ・カー・ケア・システムの全国展開	155
第5節 自己資本の増強と有利子負債の削減	
1. 3カ年中期経営計画「3SプラスSプラン」の導入	155
2. 子会社の合併による経営基盤の強化	156
3. 第三者割当増資の実施	157
4. デポの売却	158
5. 自動車事業への特化に伴う関連事業の撤退	158
6. 新3カ年中期経営計画「テイクオフプラン」のスタート	158
7. 再度の第三者割当増資の実施	159
8. コンプライアンス委員会発足とコンプライアンス宣言文・倫理綱領策定	160
9. 新3カ年中期経営計画「NEXT STAGE 2010」のスタート	161
第6節 梁瀬次郎名誉会長の逝去	
1. 名誉会長の逝去	161
2. 社葬の実施	162
3. 名誉会長の功績	162

第10章 次の100年へ向けてさらなる基盤強化 2010-2015 —全天候型持続・成長可能企業へ—

第1節 東日本大震災	
1. 東日本大震災の発生	166
2. 東北での被害	166
3. 支援物資の輸送	167
4. 被災地支援	167
5. ヤナセグループ全事業所に災害用備蓄品配備	168
第2節 芝浦新社屋の再開事業	
1. 芝浦再開プロジェクトチーム設置	168
2. 芝浦再開事業の趣旨と計画策定	169
3. 芝浦新社屋の竣工	170
第3節 全天候型企業へのさらなる基盤強化	
1. 中長期ビジョンの策定	171
2. 新3カ年中期経営計画「TRANSFORM 2013」の策定	173
3. ディーラー基盤のさらなる強化	174
4. ヤナセオートシステムズの設立	175
5. TOBの実施	176
6. 新たな中期経営計画「TRANSFORM II 2016」のスタート	176
第4節 2015年、創立100周年を迎える	
1. 創立100周年記念実行委員会の活動開始	176
2. 創立100周年記念事業の実施	177
3. 創立100周年記念式典、記念祝賀会の開催	178
■創立100周年記念式典・記念祝賀会	180